

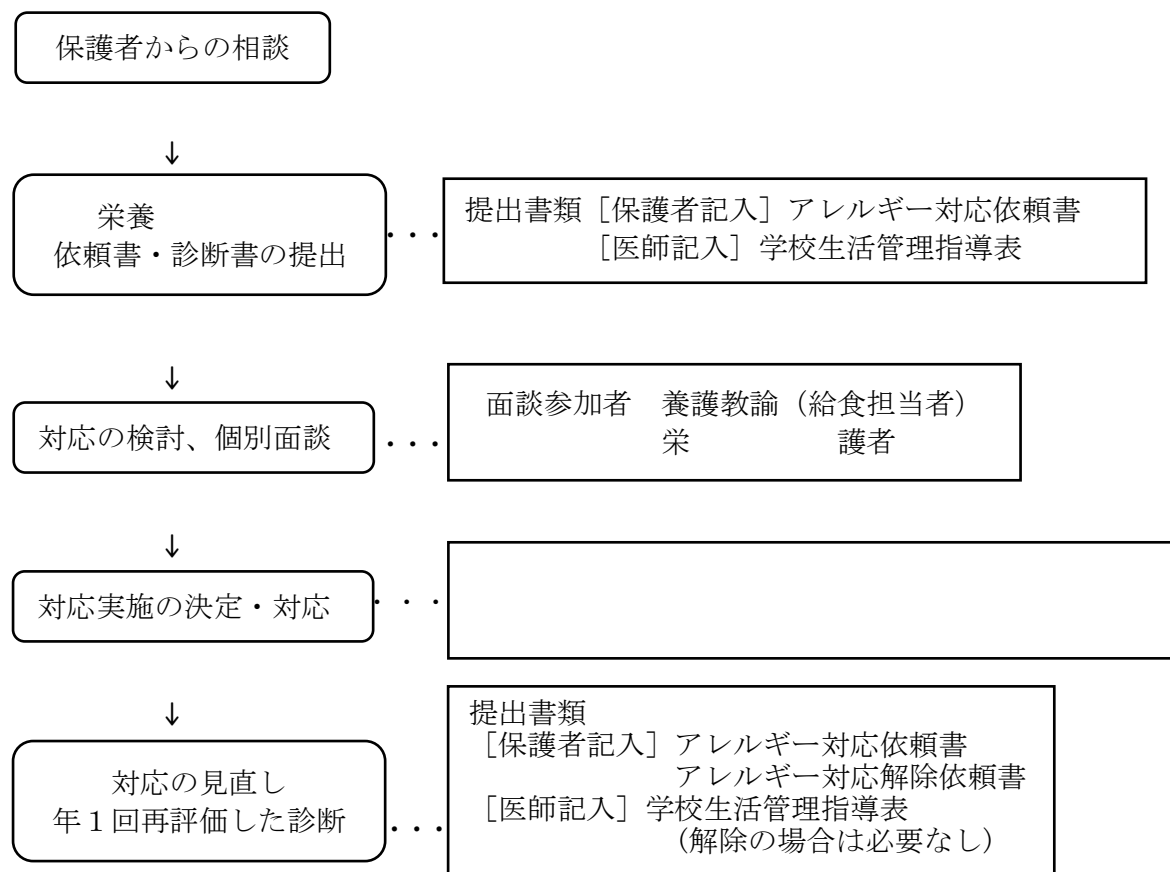
食物アレルギー対応マニュアル

今治市立菊間小学校

I 基本方針

- (1) 食物アレルギーの対応は、原因食品の除去を基本とし、代替は行わない。
- (2) 医師からのアレルギー診断書（学校生活管理指導表）の提出を求める。
- (3) 実施の決定は学校長が行い、担任・栄養教諭・養護教諭・学校医等の関係者が連携して対応する。
- (4) 学校、調理場の実状から判断し、継続して行える作業の範囲で行う。
- (5) 対応中は、保護者および主治医との連絡を密にする。

2 対応開始までの流れ



3 給食でアレルギー事故が発生した場合

(1) 学校でアレルギー事故が発生した場合の対応

【学校の対応】

- ① 学校長は、健康被害を及ぼす事故の発生があった場合、速やかに菊間調理場に報告する。

- ② 原因食材が入っていた食缶、食器はできるだけ現状のまま保持する。
- ③ アレルギー対応児童生徒の摂取状況や症状・状態を確認するとともに、学校での誤配の有無や対処状況を確認する。

(2) 事故後の対応

【学校の対応】

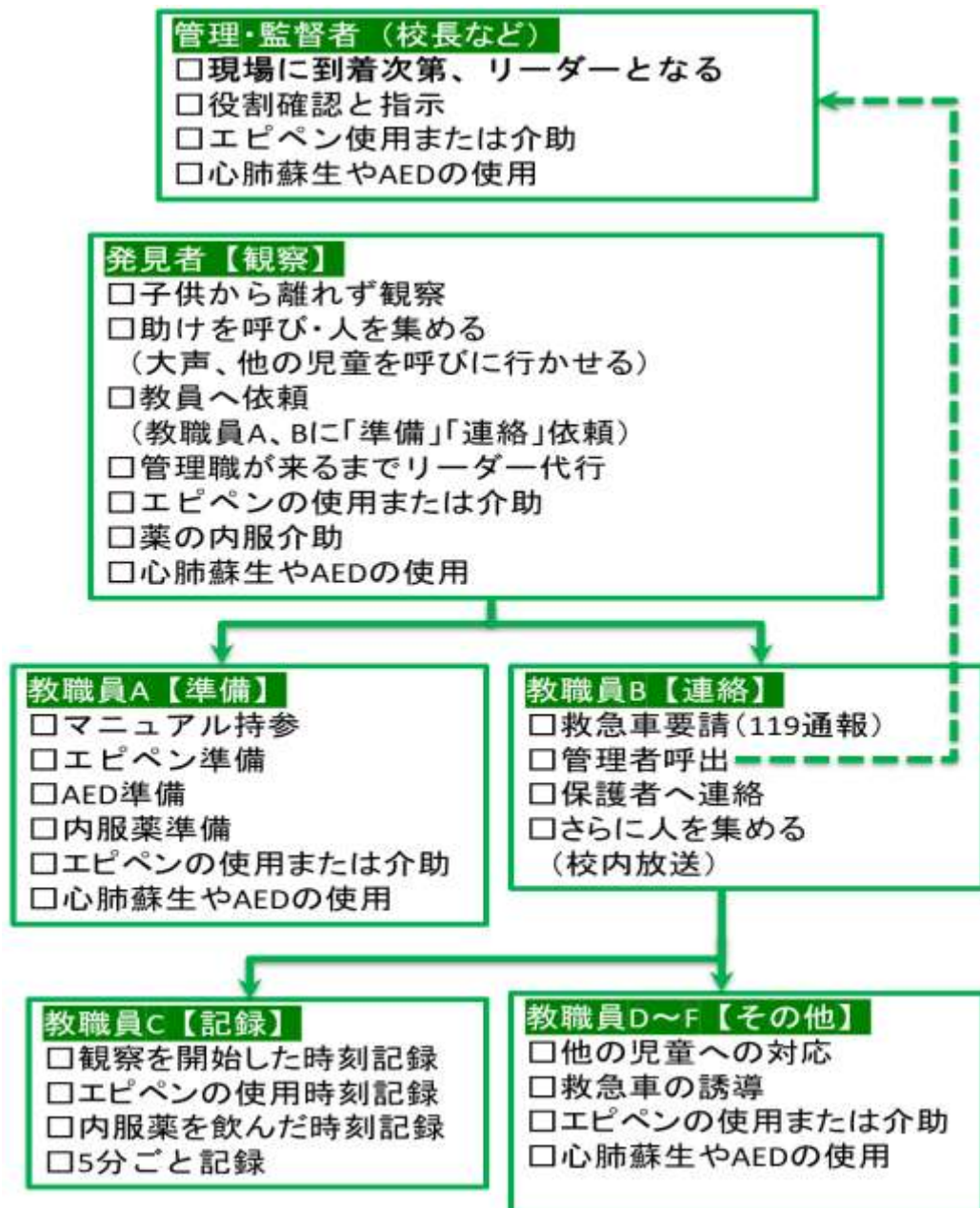
- ① 学校給食課・学校長間で協議し、被害児童生徒及びその保護者へ原因の報告、再発防止対策について説明し、謝罪する。
- ② 学校等に原因があった場合は、アレルギー対応委員会を開催し、必要な再発防止策について協議する。

学校での確認・・・摂取状況、連絡時での対処状況、
学校での誤配の有無、症状、状態

調理場での確認・・・使用食材、作業工程、作業動線、調理場での誤配有無

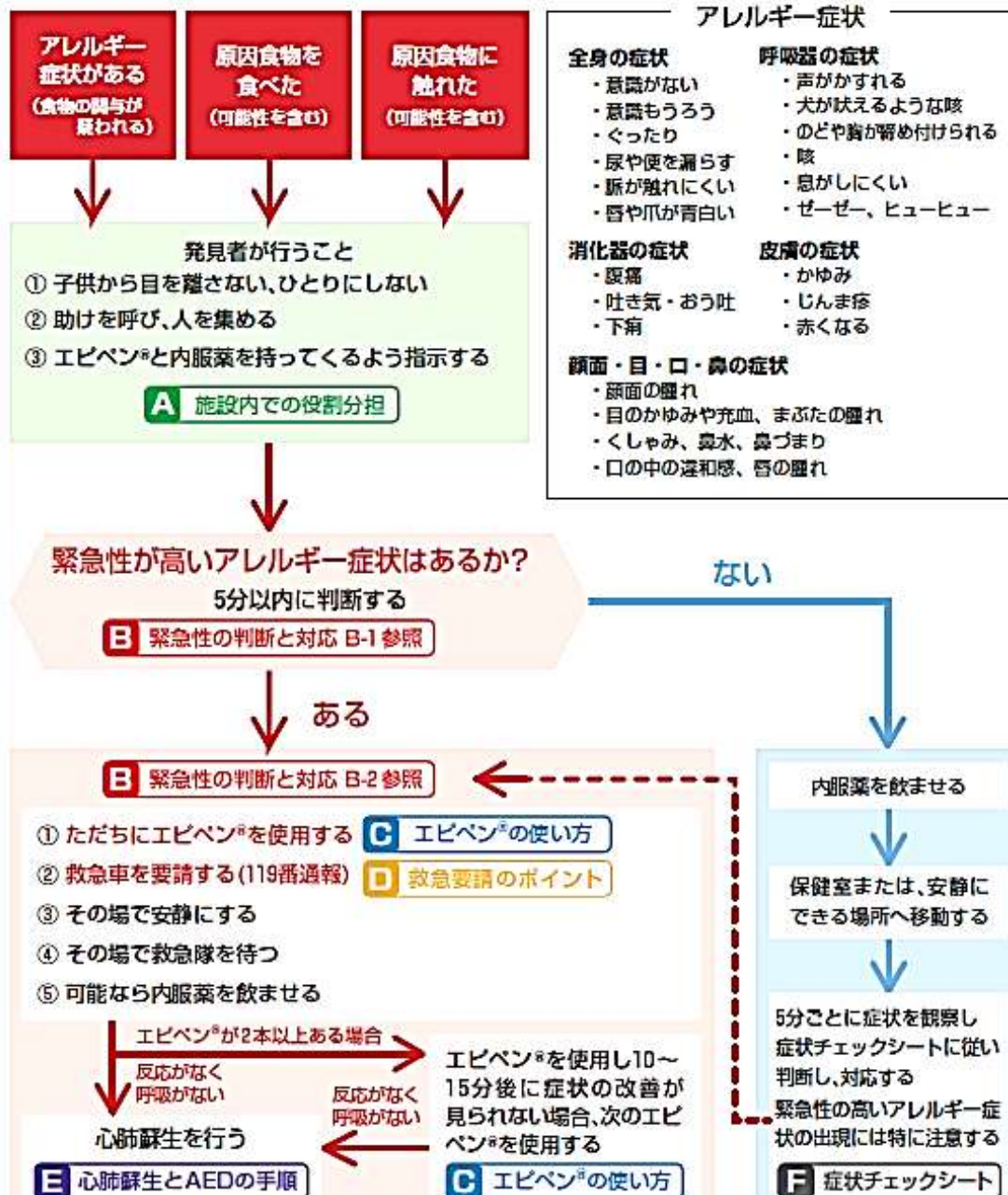
① の報告を受け、調理場で確認

4 食物アレルギー緊急時の役割分担



食物アレルギー緊急時対応マニュアル

アレルギー症状への対応の手順



6 緊急性の判断と対応

緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくい
または不規則
- ☐ 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- ☐ 持続する強い
(がまんできない)
おなかの痛み
- ☐ 繰り返し嘔吐続ける

※ アレルギー症状があったら5分以内に判断する！緊急性が高い→エピペンを打つ

7 エピペンの使い方

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン®を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ

“グー” で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える

**注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！**

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレ
ンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝を
しっかり抑え、動かないように固定する

注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ
真ん中(Ⓐ)よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



F

症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻(時 分) 内服した時刻(時 分) エピペン®を使用した時刻(時 分)

全身の
症状

- ☐ ぐったり
- ☐ 意識もうろう
- ☐ 尿や便を漏らす
- ☐ 脈が触れにくいまたは不規則
- ☐ 唇や爪が青白い

呼吸器
の症状

- ☐ のどや胸が締め付けられる
- ☐ 声がかすれる
- ☐ 犬が吠えるような咳
- ☐ 息がしにくい
- ☐ 持続する強い咳き込み
- ☐ ゼーゼーする呼吸

- ☐ 数回の軽い咳

消化器
の症状

- ☐ 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- ☐ 繰り返し吐き続ける

- ☐ 中等度のお腹の痛み
- ☐ 1～2回のおう吐
- ☐ 1～2回の下痢

- ☐ 軽いお腹の痛み(がまんできる)
- ☐ 吐き気

目・口・
鼻・顔面
の症状

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

- ☐ 顔全体の腫れ
- ☐ まぶたの腫れ

- ☐ 目のかゆみ、充血
- ☐ 口の中の違和感、唇の腫れ
- ☐ くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の
症状

- ☐ 強いかゆみ
- ☐ 全身に広がるじんま疹
- ☐ 全身が真っ赤

- ☐ 軽度のかゆみ
- ☐ 数個のじんま疹
- ☐ 部分的な赤み

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン®を使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ
(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する
(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、☐の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに
医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察